

ときめき人

Tokimeki bito



秋の園遊会に招待された永浦貞志・レイ子夫妻(赤坂御苑にて撮影)

「忠恕」を胸に 各種家電リサイクル 事業に尽力。 その気持ちは これまでも これからも

迫町・光ヶ丘東

永浦 貞志さん

ながうら・さだし
1937年生まれ 血液型/A B型

Profile

(株)高周代表取締役会長。1955年に佐沼高等学校卒業後、兄が経営する(有)高周電機(現:(株)高周)に就職。当時主流だったラジオの販売や修繕をする。80年に代表取締役社長に就任後、電気工事や設備工事全般に業務を拡大する。91年に宮城県電機商業組合理事長、2005年には、全国電機商業組合連合会副会長に選出される。

「とても荣誉のある会に参加できてうれしい」
11月12日、東京都千代田区の赤坂御苑で秋の園遊会が開催されました。園遊会は、天皇、皇后両陛下が国会議員や各界功績者とその配偶者など約2千人を招かれる社交の場で、本市から永浦夫妻が出席しました。

永浦さんは家電製品販売業などを経営。「家電製品に含まれている鉛やスズなどは環境に悪影響を及ぼす。不法投棄を無くしたかった」と、県廃家電品適正処理協力協議会会長や県フロン対策協議会副会長、経済産業省の家電リサイクル法改正審議会委員などを務め、環境対策に貢献。その功績が認められ2013年に旭日双光章を受章し「家族や従業員の支えがあってこそ

活動。みんなに感謝しています」と、支えてくれた人たちへの感謝を語ります。

県廃家電品協議会は家電製品の不法投棄を無くす目的で、製造・販売する企業が協同で設立。当時、リサイクル法などはない中、家電製品を無償回収していました。

「自分たちの商売が原因で、環境が壊れていくのは我慢できなくて。気づいたら、いろんな仕事が増えていただけです」と笑います。

永浦さんの座右の銘は「忠恕^{ちゅうじよ}」。自分の良心に忠実であり、他人に深い思いやりを持つことを意味します。

今は、この思いを次世代に引き継ぎ、後輩たちの活躍を見守っています。

編集後記

▼今年の冬はずっと暖かいのかと思えば、急に寒くなってみたり、また元に戻ってみたり。暖かいのは過ごしやすいが、冬は冬らしく寒いほうがいい。冬が暖かいと夏に涼しくなりそうだから、何事も「らしさ」が大事。自分らしさを忘れずにいたい。(及川)

▼東日本大震災からまもなく5年。今号で取材した新成人のインタビューでは、復興のために、地元のためにという言葉を多く耳にしました。震災当時、中学3年だった今年の新成人。ふるさとへの熱い思い、そしてふるさとの役に立ちたいという強い気持ちに胸が熱くなりました。(佐藤)

▼登米市法印神楽実演会の取材に行きました。市内に古くから伝わる、上沼茂流や日高見流浅部などの神楽の演舞。華麗な舞や迫力ある舞に、終始目が離せませんでした。このような伝統ある行事は次代に継承することが大切。広報することで、その助けになればうれしいですね。(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

